

1月 給食だより



新座市立第二中学校
校長 小関 直
栄養教諭 加藤耕平

あけましておめでとうございます。今年も引き続き安心・安全な学校給食の提供に努めて参ります。12月の給食だよりでは、「登校しなくても、8:30に登校できる生活を!」ということをお伝えしました。生活リズムを大きく崩すことなく過ごすことができましたでしょうか。3学期も感染症に気を付けていきましょう。

ネット依存症から、「共食」を考える



<学校給食週間について>

1月24日(水)~30日(火)は全国学校給食週間です。給食のはじまりは明治22年の山形県鶴岡市にあります。お弁当を持ってこられない子供たちに、おにぎりや塩ザケ、漬物などを食べさせたのが始まりとされています。戦後、児童・生徒の栄養補給を目的にして再開されました。その後、好き嫌いをなくして、栄養的にも良いという理由から、全国的に学校給食が広まりました。

皆様のご家庭は、正月に家族や親せきと一緒に食事をしましたか。『普段の朝ごはんは忙しいし、家を出る時間がバラバラなので別々に食べているけれど、お正月の朝ごはんはみんなでそろって「いただきます」をしました。』なんてご家庭もあるのではないのでしょうか。日本の数ある年中行事の中でも正月の食事は特段に家族との関わりが強い文化だと思っています。

「食卓を囲む」というのは、囲むという意味からも最低3人は必要だと思います(自分、隣、向かい)が、新型コロナウイルス感染症によって学校給食の食べ方も、従来の班テーブルスタイルから前向きスタイルに変わったことにより、この体験が乏しい小中学生が増えています。自分の食事の先にこちらを向いて食べている人がいることが新鮮なのか不安なのか、世の中には顔を合わせている友人でさえ、マスクを外して食事をする姿を見せるのに抵抗がある人がいるようです。何か寂しい気がしませんか。

食卓を囲む機会が減り、食事中的の会話が減り、代わりに台頭してきたのはスマートフォンです。右手にお箸、左手には茶碗を持つという食事マナーから、スマートフォンを片手に食事をする人が増えている気がしています。第二中学校の生徒にはそのような大人にはなってほしくないと思っています。そんなことを考えていた矢先、冬休み中に受けた**ネット・ゲーム依存の理解と対応**という研修会で、藍里病院の吉田先生がデジタル・デトックスとして家庭でやってほしいこととして「みんなで食事。全員スマホなし。テレビ見ない。」を強く勧めておられました。一緒に食事をする「共食」が果たす役割はますます大切になってきていると感じています。正月以降も食卓を囲む習慣をよろしく願いいたします。

食育とSDGs
~食育ピクトグラム~



今月はピクトグラムも共食に関するものでした♪

